

[成果情報名] 中晩生カンキツ「せとか」「麗紅」「はるか」の露地栽培での成熟特性

[要約] 「せとか」は樹上に置いた方が減酸は遅いものの糖度が高くなり、 2月上旬には14度になる。

「麗紅」は樹上に置いた方が糖度が高く、 2月上旬には15度になる。また、'せとか'に比べ減酸が早い。「はるか」は減酸が早い、2月中旬まで樹上に置くことで糖度が高くなる。

[キーワード] 中晩生カンキツ、成熟、糖度、減酸

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 0957-55-8740 電子メール s00660@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

中晩生カンキツの成熟特性は品種によって大きく異なっており、特に最近の新しい品種ではその特性は十分に把握されていない。そこで、現在普及中の品種や今後普及するであろうと考えられる品種について収穫時期別及び貯蔵期間中の果実品質の推移を調査し、収穫適期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「せとか」の糖度は貯蔵果実ではほとんど変化しなかったのに対し、樹上に置いた果実では約2か月で2度高くなり、2月中旬以降になると14を超えるようになる(表1)。貯蔵した果実よりも樹上に置いた果実が減酸の程度は遅いが、2月下旬から3月上旬になると1.2~1.4g/100mlになる。また、その頃まで置いても腐敗や落果は見られない(表3)。
2. 「麗紅」の糖度は貯蔵果実は1月下旬以降、ほぼ一定なのに対し、樹上に置いた果実は時期が遅いほど高くなる(表2)。酸含量は時期が遅いほど低くなるが、貯蔵果実では1月下旬、樹上果実で2月中旬には食味上問題ないレベルまで減酸が進む。腐敗果、落果は2月中旬以降、発生がみられ、特に樹上に置いた果実では2月下旬になると発生が多くなる(表3)。
3. 「はるか」は1月上旬以降も糖度が上昇し、特に樹上に置いた果実でその傾向が顕著で、2月中旬でほぼ一定となる(表4)。酸含量は1月上旬で0.70と低く、可食できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 糖度の上昇や減酸は土壌条件や気象によって変動するので、収穫に当たっては事前に果実分析を行う。
2. 鳥害の発生がみられる場合は防鳥網を設置するなどの対策を講じる。

[具体的データ]

表1 'せとか'の収穫時期の違いと貯蔵下における果実品質 (2003)

	処 理	調 査 日				
		12/24	1/29	2/10	2/20	3/ 1
糖 度	貯 蔵 ^z		13.2	12.6	12.8	12.8
	樹 上	12.5	13.4	14.0	14.3	14.5
酸含量 (g/100ml)	貯 蔵 ^z		1.27	1.43	1.29	1.12
	樹 上	1.88	1.57	1.69	1.42	1.23

^z 12月24日に収穫し、その後常温で貯蔵

表2 '麗紅'の収穫時期の違いと貯蔵下における果実品質 (2003)

	処 理	調 査 日				
		12/24	1/29	2/10	2/20	3/ 1
糖 度	貯 蔵 ^z		13.7	14.0	13.9	13.8
	樹 上	13.4	14.3	15.0	15.3	-
酸含量 (g/100ml)	貯 蔵 ^z		1.14	1.18	1.04	0.87
	樹 上	1.36	1.26	1.08	1.12	-

^z 12月24日に収穫し、その後常温で貯蔵

表3 せとか及び麗紅の収穫時期の違いと貯蔵下における果皮障害及び腐敗果の発生率 (2003)

品 種	処 理	へた枯れ(%)				しなび果(%)				腐敗果、落果(%)			
		1/29	2/10	2/20	3/ 1	1/29	2/10	2/20	3/ 1	1/29	2/10	2/20	3/ 1
せとか	貯蔵 ^z	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	樹上	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
麗 紅	貯蔵 ^z	0.0	0.0	4.0		0.0	0.0	0.0		0.0	5.0	5.0	
	樹上	-	-	-		-	-	-		0.0	5.0	15.0	

^z 12月24日に収穫し、その後常温で貯蔵

表4 'はるか'の収穫時期の違いと貯蔵下における果実品質 (2003)

	処 理	調 査 日				
		1/ 8	1/29	2/10	2/20	3/ 1
糖 度	貯 蔵 ^z		12.2	12.7	13.1	13.4
	樹 上	12.1	12.3	13.7	13.9	13.9
酸含量 (g/100ml)	貯 蔵 ^z		0.64	0.61	0.57	0.59
	樹 上	0.70	0.61	0.64	0.63	0.55

^z 1月 8日に収穫し、その後常温で貯蔵

[その他]

研究課題名：機能性に富む中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

予 算 区 分：県単

研究 期 間：2004～2008年度

研究担当者：林田誠剛